

日時 平成27年2月25日(水) 13:30~15:30
 会場 藤枝市生涯学習センター 1F 第3会議室
 出席者 委員13名(定員15名 2名欠席)
 事務局4名



議事・報告事項

(1) 平成27年度推進施策について

委員	主な目標数値の「性別による役割分担意識」と「子どものしつけを両親が共同で行う割合」は、平成18年から23年で並行状態である。今後、学校教育で道徳教育が導入されるので、保護者も関心をもつ施策を考えていただくといいと思う。授業参観の機会などに親子で一緒に聴くことも一つの施策であると思う。
委員	来年度の予算要求が増額されたことは、市の施策として大事であると同えるが、(増額は)女性活躍推進事業の1本であるのか?あるいは、これに伴い何か事業があるのか?
事務局	来年度予算であり、議会で審議され承認されなければ執行できないが、今は単独の女性活躍推進フォーラムという形を考えている。市の全体的な雰囲気も、幹部は女性活躍の重要性を承知しており、特出しできる状況になった。
委員	主な目標数値の「子どものしつけを両親が共同で行う割合」は、市で考えていることか?
事務局	平成20年に策定した藤枝市男女共同参画第2次行動計画の中の目標数値である。
委員	子どものしつけが両親で行うかどうかは男女共同参画の問題ではなく、夫婦の問題ではないか?数値を上げることの必要性に疑問を感じる。実際、平成18年と23年を比べてもあまり変化がなく、下がっている。80%にもっていきは難しいのではないか?
事務局	男女共同参画の観点から数値は上がる必要がある。女性の社会への参画が進んでいくためには、家庭の中も重要になってくる。市民意識調査で子どものしつけを両親が行っている、または行っていた割合は32.8%であったが、両親が行うことを理想と思う割合は80%であった。そこへできるだけ近づけていきたい。
委員	80%に上げていくことは難しいと思う。この項目に対する意識が低いのではないかと思う。
事務局	市民意識調査の回答者の50%が60歳以上であった。その人たちが過去にどうしていたかを含んで調査しているため、なかなか数値が上がっていかない。若い人たちに家庭での男女共同参画を啓発する中で上げていきたい。
委員	子どもの「しつけ」という言葉自体が古い気がする。しつけと聞くと、ペットのしつけのように感じる。「子育て」とすれば、数値は上がってくると思う。言葉の使い方が問題なのでは?
事務局	以前、参画会議の中でもご指摘を受けた。しつけという言葉は少し古くて、実際に聞いていることは子育てであるので、今回の調査では見直していきたいと思う。
委員	しつけというと、厳しいイメージがあるが、聞きたいことは教育や生活習慣を身につけることだと思うので、質問の聞き方を変えていくことがいいと思う。躾は身を美しくと書き、日本でできた国字で個人的には好きな漢字であるが、質問を受ける側のイメージが違ってしまうと、答えも変わってしまうので課で検討をお願いしたい。
委員	参画会議の委員は2年で交替するので、配布を見込んだ上で第2次行動計画を印刷して、委員に就任するときに配って行動計画を読んでいただくといいと思う。
事務局	事務局の配慮が足りなかったもので、早急に委員の皆さんへ配布させていただく。
委員	今年度、小学校で外部から講師を招いて教育講演会を行った。しつけに関して学んでいただく会にしたかったが、千人規模の学校で参加者が100人に満たなかった。市にもPRの相談をしたが、特別にはできないと力を借りることができず、自治会や幼稚園などを回ったが100人に満たず、とても残念であった。聴講した方々はもっと多くの人に聴いてほしかったとの意見が大半で、講師も残念がっていた。高い目標を掲げるのであれば、こうしたことにも協力していただけるとありがたいと思う。
委員	昨年、広幡では「釜石の奇跡」の片田先生にお越しいただいたが、広幡中学校に300人を超える活況があった。市へ頼むのではなく、その地域の行動力、自分たちの足元を固める必要があるのではないかと思う。民生委員、町内会長・自治会長をはじめ、小中学校のPTAなどみんなでスクラム組んで協力した。地域をいかに巻き込んでいくかを色々な角度で検討する必要もあると思う。
委員	講演会を開催した日時や曜日は?
委員	10月18日、土曜日の昼間に開催した。参加者が少なかったのにアンケート調査を行い、日程を聞き次回に活かしたい。
委員	私どもの地区でも教育講演会を行っているが、人数を集めるためには自治会・町内会が中心にならないと集まってこない。普段から意思の疎通をして、お互いに助け合うことが大切である。学校の関係者だけで動員をかけると役員しか出席しないので、自治会・町内会に話をして、協力し合うかたちがいいと思う。



(2) 平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画（既存）について

委員	地区推進員の啓発活動はイベント関係が多いが、地域の中で推進員の役割のPRをしていくと思う。具田的には自治会や町内会の総会の席で活動結果の報告や役割のPRをすることを職務に付け加えたらいかかと思う。
事務局	地区推進員は自治会からの推薦をいただいて、2年間の任期で活動していただいている。現在2期目の1年が終わったところである。自治会の中で地区推進員を経験する人を増やしていくことも役目かと思っている。来年度は、ご意見の内容にも取り組んでいきたい。
委員	昨年、広幡地区は下田課長にお越しいただき、「男女共同参画について」1時間お話を頂戴した。自治会推薦で推進員が決められているので各地域で広報活動を行い、80人ほどの参加があった。さばけたお話もあり、参加者から「こういうことか。気軽になった」という意見が聞かれよかった。今後、各地区でも活用できると思う。 市は小中学生への講座を行っているが、今後は中高年や保護者の年代にも気軽に参加できる男女共同参画の講習会で浸透させていくこともいいと思う。地域包括の地区指定やアクションミーティングとも相まっていくと、より浸透が深まるのではないかと思う。
委員	女性の町内会長は1人しかいない。ましてや自治会長は皆無である。そうした中、市から審議会の人選を受けるときに、女性の枠をつけられると非常に難しく、みんな尻ごみしてしまう。女性が40%、50%が理想であろうが、現実的には非常に難しい話である。自治会・町内会の役員となると引かれてしまうので、啓発していただくも運営も楽になるかと思う。自治会・町内会の組織の中に女性も入ってきていただいているが、三役となると「女だてらに、女の私が」と断られてしまう。
委員	自治会の仕事はすごくたくさんある。自治会の方に伺うと、役員の期間は他のことができないと聞く。自治会の仕事を楽にしていけるとも必要であると思う。
委員	現在、3月のスケジュールは3分の2が埋まっている。少ない月でも10日は埋まる。忙しさはあるが難しくはないので、女性の方もなっただければと思う。女性の町内会長から「大変だったけど、よかった」という意見も聞いている。 地域の中で自治会、民生委員をはじめ、学校関係者など協力し合ってやっていくといいと思う。
事務局	統計では県内35の市町の内、15の市町で女性の自治会長がいる。小学校のPTA会長は、藤枝市では17校の内、4校で女性がPTA会長になっている。
委員	以前、知り合いの女性が藤枝西高でPTA会長をやっていた。そのとき、周囲は「お前も好きだな」という反応であった。その意識から変えていかないといけないと思う。
委員	仕事量と周りの意識では、どちらが断られる理由は多いのか？
委員	「女だてらに」という意識の方が大きい。女性の意識を変えることも大切だと思う。1人でやる訳ではないが、最終的に責任を持つことに抵抗を感じてしまう。
委員	民生委員制度はもうすぐ90年になるが、当初は100%お金持ちの男性が面倒をみていた。経過する中で現在藤枝市には241人の民生委員がいるが、女性が55%で男性が45%で均衡がとれている。民生委員の地域への関わりが広がり、広幡地区では昨年町内会議に出て顔を知ってもらい、意見を言う活動をして効果を得てきている。 話は変わるが、先日静岡新聞に吉田町では女性の町内会長について、その町内会に補助金を30万円出すとあった。女性自身の問題もあるし、もっと女性を取り巻く環境整備も必要であると思う。困り切った地区が補助金を出して女性の進出を望んでいることを認識いただきたい。
委員	自治会長や町内会長は、ボランティアであるのか？
委員	役員ごとに若干の報酬はあるが、生活の足しにはならない。
委員	中学校でPTA会長を引き受けたが、最後に学校から謝礼をもらい、スタッフに分配した。会長の選考が難航し、会議を開催する曜日などの条件を出して引き受けた。会長が決まったら、その他の役員はスムーズに決まっていた。役員さんたちが協力的でやりがいがあった。
委員	やってみるとよかったという意見は出るが、女性が手を上げて「私がやります」というのは、反応が怖くてできない。
委員	ボランティア色が強いのであれば、役員になった人に預けてやり方を変えてみる方法もよいのではないか？

委員	あまり変えてしまうと、それに対して批判が出る。私が会長だからと大きく変えると非常に抵抗がある。
委員	教育講演会も手作りで学習センターのビデオを借りて上映し、大人も子どもも参加して400人であった。PTA会長のため、自治会の酒席にも出たが、みんな気のいいおじさんたちであった。
委員	「助けてください」と声をかければ、自治会のおじさんはみんながんばる。(私の地区の)教育講演会は、自治会が中心になってサポートしている。困ったときは、自治会長や町内会長に相談すれば、動いてくれる。
委員	小学校・中学校は地域のものであるので、地域の人々が来られるようにしたいという思いが1年間の活動の中にあっただ。なり手がないうちで会長をやらせていただいたので、やりやすかった。
委員	自治会も同じ。やりたくない中で誰かがやらないといけないので、やるからには楽しくやればよい。民生委員も大変な仕事だけど、皆さん楽しんでやっている。
委員	学校もスクールサポーターや評議委員会とかの場があるので、有効に活用するといいと思う。
委員	学校の保護者だけでやろうとしないで、地域ぐるみで声をかけていっていただければいい。
委員	小中学校でのふれあい体験学習は、キャリア教育が叫ばれる中、日本の未来を背負っていく子どもたちに力を入れていて意義深いと思う。子どもたちが学ぶときに、「働いてみたい。こういう職業があるんだ」ということを幅広く知って、働くことにあこがれをもつことが一番大きいかと思う。私の職場から二人の幼稚園教師が講師に選ばれて参加したが、いい刺激を受けて帰ってきた。子どもたちからエネルギーをもらったと言って、いい顔をして仕事に臨んでいた。講師の選定が大変という話があったが、地域の方から講師を紹介してもらい広げていくこともいいと思う。学校側に照会して情報を収集する方法もある。
委員	出前講座の講師にOBの登用もいいと思う。例えば、昔裁判官や検事でしたとか、パイロットや管制官をやっていた人たちがいる。現役だけに絞らないで、色んな分野で活躍していた多様な人々を考えてみるのもいいと思う。
委員	小学生マイジョブ講座の講師に知り合いの女性弁護士がいいと思う。インパクトがあるしかっこいいので、声掛けを続ければ誠意が伝わるのではと思う。 多文化共生で、県内全体で見ると人口の1位はブラジル人で2位が中国人、3位がフィリピン人で4位がペルー人が現在の順位である。藤枝市ではフィリピン人が1位であることに特徴があると思う。これまで中南米の方をフォローする活動で進めてきていたが、ベストテンのアジアの国が5つ入っているので、アジアの友との共生を明確な視点として出すことを検討していただければいいと思う。それにより色んな人が住みやすい藤枝になり、自治会・町内会の方々ともいいかたちで住んでいくことになる。
委員	小学生マイジョブ講座は、商工会議所や青年会議所などの他団体と一緒にやってみてはどうかと思う。何々先生という形で色々依頼があり、お茶の入れ方教室などをやっている。かなり情報をもっている。時代の回転が早いので、小学生には同世代の人たちが先生になった方が子ども受けがいいと思う。 多文化共生は、国際友好協会で行った方がいいのではないかと男女共同参画からかけ離れている気がする。
事務局	男女共同参画とは別物で当課で兼ねて行っている。職員は兼務という形になる。市の総合計画の中で「共生社会の実現」という大きな目的があり、二つに枝分かれして男女共同参画の推進と多文化共生の実現になっている。男女共同参画の比重が大きいけど、多文化共生も当課で担当している。交流よりも、日本の言葉や習慣がわからない人々への入口の段階を受け持っている。
委員	企業の方が男女の垣根がなく、私の職場では能力があれば女性も昇格している。啓発をしなくても増えていく時代なので、「女性が、女性が」という必要はないのではと思う。
事務局	若い年代と年配の方では意識も変わっていて、小学生では男女の垣根をもっていない。自然にまかせるとはならず、速度を早めていくことが当課の使命と思っている。
委員	現在、50歳くらいの人たちは男女雇用均等法以降になり、50歳以下はあまり気にしなくていい。あと10年くらいは、国の施策として男女共同参画は進めなければならない。県も市も同じように推進していく必要がある。あと10年くらいすれば、当たり前前の社会になってくる。
委員	推進事業所認定事業は、男女共同参画が当たり前になれば、認定されることが当然の社会になってくると思う。とはいえ、これまでに認定された事業所に更新してもらえるように努めてほしい。
事務局	これまで23事業所を認定させていただいているが、新たに自ら認定してほしいという会社が増えてきた。女性活躍推進法案が閣議決定され、私たちが行っていることを国でもやる。認定事業については、当たり前になるように引き続いて進めていきたい。